

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 家庭 科目 家庭総合

教科： 家庭 科目： 家庭総合

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ E 組

教科担当者： （A組：梅沢） （B組：梅沢） （C組：梅沢） （D組：渡邊） （E組：渡邊）

使用教科書： （「家庭総合 自立・共生・創造」 東京書籍 ）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに関する技能を身に付けている。	○生涯を見通し、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善しながら考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭・地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	オリエンテーション ・家庭総合の学習内容と学び方について理解させる。	・家庭総合を学ぶにあたり、学習の意義と内容、情報収集の仕方やレポートの書き方など学習の方法と評価の方法を理解させる。	(態) 家庭総合の学習の意義や学習内容・方法等について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。			○	1
	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標をもって生きる ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解させる。	・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自分の課題について考える。 ・今の自分について自己分析を行い、未来予想図を描く。	(思) 自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポート作成などを通して、自分や人の一生についての考えをまとめることができる。 (知・思) 人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、社会の状況や自分の将来について考えを深めている。 (態) 現在の自分のことや将来の生活設計を考えることについて、意欲をもって取り組もうとしている。	○	○	○	3
	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解させる。	・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションする。 ・家族の条件やライフイベント等について考える。 ・家族が抱える問題をふまえ、家族を支えるしくみについて具体的に考える。	(態) 人生設計に必要な要素を理解し、自分の将来とこれからの社会について考えようとしている。 (知) 結婚、家族と家庭の多様化や時代とともに変化する役割について理解している。 (思) 家族の変遷や家族に関する意識の変化、さらには現在の家族の抱える課題などについて情報を収集し、自らの考えをまとめることができる。	○	○	○	12
	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる ・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向け、家族・家庭生活を支える福祉について考えさせる。	・人の一生と社会福祉とのかかわりをイメージすることで「福祉」の意味について考える。 ・社会保障制度のしくみをふまえて将来に向けての課題を考える。 ・暮らしの中の支え合いの大切さを理解し、ボランティア活動や地域社会での様々な活動の意義について考える。	(知) 社会福祉の意味や現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解している。 (思) 社会福祉や、生涯を通しての社会保障制度のしくみについて、現在の生活課題と関連させながら考えることができる。 (態) 支え合う社会とは何かを考え、社会福祉についての考えをまとめることができる。また、社会において自分ができることは何かを導き出すことができ、ボランティア活動等の実践に生かすことができる。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境 ・子どもの発達に応じて適切にかかわれるよう、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解させる。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解させる。	・青年期の健康を学ぶことで、次世代を担う子どもを育てることの責任感を養う。 ・子どもの成長の様子を学び、子どもの発達について考える。 ・子どもの食生活、衣生活、安全管理について学び、子どもと関わるようにする。 ・子どものためのものづくりを通して、子どもの発達の様子などについて考える。 ・子育ての社会的課題について知り、どのようなサポートが必要とされているのか。	(態) 生命の尊さについて、自分の現在・将来と結びつけながら学習しようとする意欲がある。 (知) 子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身に付けている。 (知) 子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物作りなどの技術を身に付けている。 (思) 子どもと触れ合う体験学習や実践学習などについて、目標の設定、考察、成果のまとめなどを表現することができる。 (態) 現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について現状を知り、課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。	○	○	○	24
	第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の設計 3 住生活の文化と知恵 ・気候風土や時代によって十分かが異なることを理解させ、日本の住文化を継承しようとする態度を育む。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などの環境性能について理解を深めさせる。	・気候風土と住まいの関係、人間の営みと住まいの関係などについて考える。 ・快適な室内環境のための日照、採光、通風、換気、冷暖房などの要素を学び、健康との関わりを考える。 ・日本の伝統的な住居の建築的な工夫や暮らしの工夫を見つける。 ・住まいとエネルギー、まちづくりなどの観点から、持続可能な住まいとは何かを考える。	(知) 住居の機能や気候風土とのかかわりに関心をもち、各地に適した住まいについて理解している。 (知) 日照・日射・採光・照明、換気・冷暖房など、健康的な住まい環境のための基本的な知識を身に付けている。 (態) 住まいの清掃やメンテナンスについて理解し、快適な住生活の設計につなげようとしている。 (思) 暮らしやすい住まいとは住空間だけでなく、周りの環境とも関係していることを自分でまとめ、表現することができる。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す ・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、消費生活における情報の活用について理解させる。 ・契約の重要性や生涯を見通した働き方について理解させる。	・情報社会における生活情報について知り、適切な活用方法について考える。 ・契約と多様な支払い方法、販売方法について学び、問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。 ・生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 ・持続可能な経済社会の実現に向けた消費行動について考える。	(思) 主体的な消費行動について多角的に考え、情報を収集しながら自分の消費行動について検証することができる。 (思) 多様化する販売方法や支払い方法について問題点や解決策を考え、判断することができる。 (知) 消費者の権利と責任などについて理解できるとともに、現代の消費生活の課題について認識できている。 (態) 消費行動と環境との関わりについて、生活と関連させながら課題を見つけ、解決の方向性を判断することができる。	○	○	○	10
	第11章 これからの生活を創造する 1 生活をデザインする ・リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようにする。	・家庭総合での1年間の学びをもとに、具体的な人生設計を組み立ててみる。	(思) 自分の近い将来についてのキャリアや生活について設計し、ワーク等を用いて具体的に表現することができる。 (態) 精神的な自立、経済的な自立、生活的自立、性的自立に向け、家庭総合で学んだ技術や知識を確認してこれからの人生を考え、実践しようとしている。	○	○	○	4
定期考査				○	○		70